特集●21世紀を目指したわが街の河川整備構想。

『母なる川留萌川』を二十一世紀に向けて市民が憩うことができるような河川公園（リバーパーク）として整備を進めて行こうという『二十一世紀を目指したわが街の河川整備構想』がまとまりました。

母なる川留萌川、21世紀に向けて整備。

留萌川は天塩山地の南端を源とし、日本海に注ぎ、その流域はすべて留萌市の行政区域となっています。

留萌川は、昭和47年に道内13番目の一級水系に指定されましたが、留萌川のように一つの市町村しか流れていない一級水系は、道内はもちろん全国的にも例が少なく、全国109の一級水系の中では留萌川と長崎県の諫早（いさはや）市を流れる「本明（ほんみょう）川」だけです。

この留萌川は、明治になって留萌港が開かれるまで、港として利用されるとともに、内陸への交通路としても利用され、留萌発展の大きな役割をはたしてきました。その留萌川を21世紀のまちづくりを実現する留萌市の都市環境軸（アメニティーゾーンの形成）、景観軸として位置づけ、この整備実現のために『21世紀を目指したわが街の河川整備構想』をまとめました。

この構想の基本テーマは、

①新たなシンボルゾーンの形成（るもいリバーパーク）。

②新たな都市景観・河川景観の創出（景観軸）。

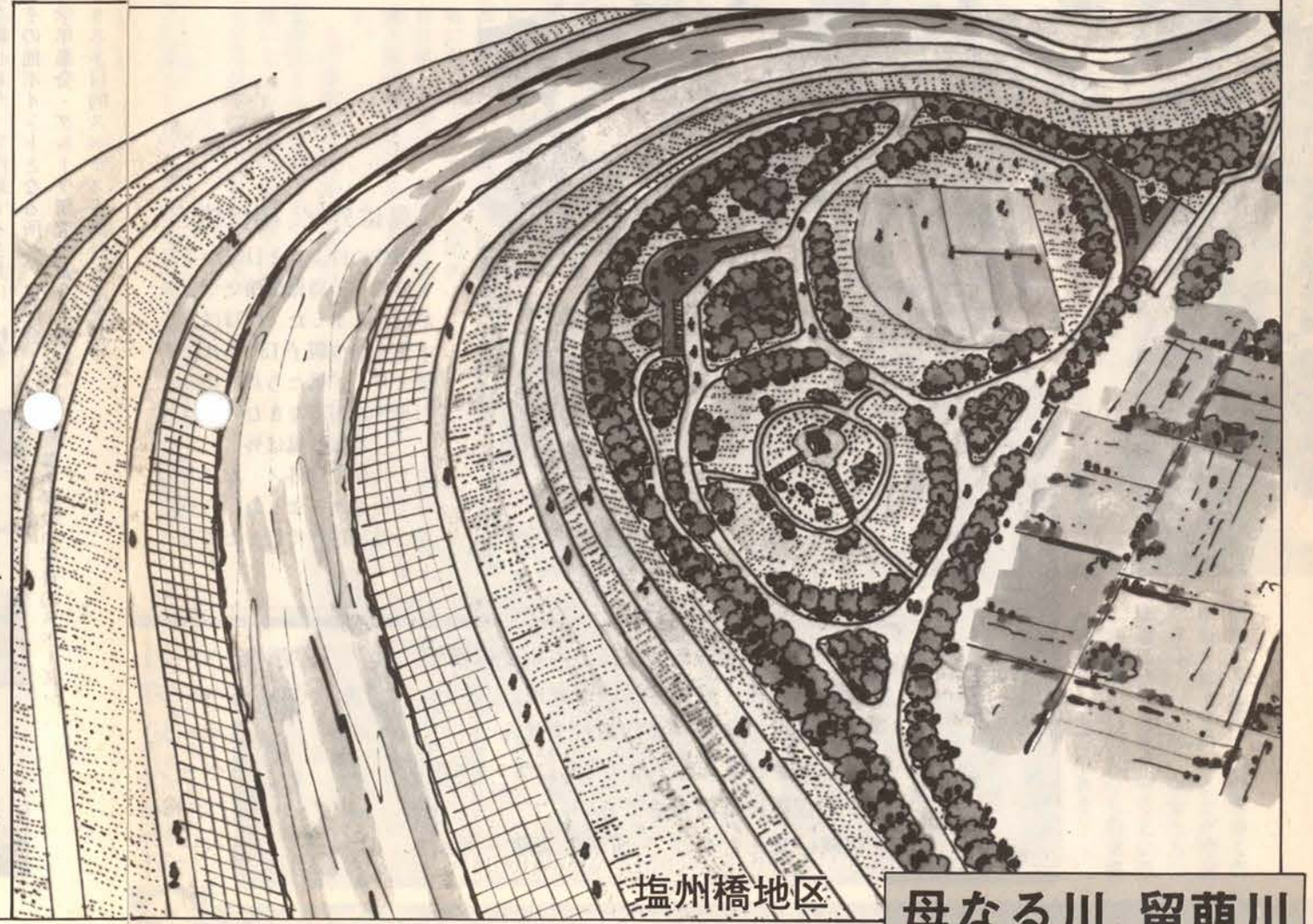
③関連諸施設と連動する水と緑豊かなグリーンベルトの創出（サイクリングロード・並木造成等）。

④緑の散歩道の創出（緑苑空間・広場）。

⑤川と市民生活のふれあい（水際空間の利用、水遊び広場、護岸等の整備）。

⑥自然とのふれあい（河岸の修景緑化等）。

とし、このテーマに添って21世紀に向けて河川整備を進めて行こうと言うものです。



塩州橋地区

「るもいリバーパーク」の整備内容は…。

●グリーンベルト整備

（留萌橋周辺）

都市景観ならびに都市環境の快適性を目指す環境軸として並木の造成、堤防の緑化、国道233号の沿道等の緑化や護岸を整備すると共に、サイクリングロードの整備を進める計画です。特に、この地区は堤防並木の造成を主体とした緑化や、サイクリングロードとして兼用可能な管理用道路を配したグリンベルト（緑地帯）化のモデル地区として整備をしたいと考えています。

●公園の整備

（栄萌橋周辺）

栄萌橋（航空母艦型オアシス橋）の掛替とあわせその周辺をおもむきのある公園として整備を進め、サイクリングロードは、橋と立体交差とし橋の下を通過できるように整備を進める計画です。また、この公園には、サイクリングターミナル、芝生広場、噴水花壇、休憩場、トイレなどを整備して河川敷及び公園とが一体となった憩いの場にしたいと考えています。

●川と市民生活のふれあいをめざす広場の整備

（高校前の橋周辺）

国道233号の道路敷と河川敷とを一体化して整備を進め、市民生活と川とを身近かなものにするために階段式の護岸やレリーフ（浮き彫り）レンガによる護岸を設置すると共に、河床に砂利をひいて子供たちの水遊び場となるように整備を進める計画です。この広場には、花壇、休憩場、トイレ、ベンチ、シンボルタワー等を整備し川と市民がふれあえるような広場にしたいと考えています。

●ホタルと遊べるような広場の整備

（東橋の周辺）

自然とふれあうことのできる広場として整備を進めるため、ホタルブロック護岸や芝生をひきしめた護岸を設け、ホタルの増殖などを行い子供たちがホタルと遊べるような広場にしたいと考えています。

●河畔公園の整備

（大和田周辺）

広い河川空間を市民がスポーツやレクリエーション等のできる河畔公園として整備を進めると共に、サイクリングロードの拠点地区として整備を進める計画です。この公園には芝生広場、緑化園、東屋、トイレ、などを整備し市民が一日中、家族をつれて遊ぶことができる公園にしたいと考えています。

●水遊び広場の整備

（幌糠地区）

この地区は、河川切替による旧川を利用して子供たちが水遊びをできるような広場として整備を進めると共に、サイクリングロードの休憩ポイントとしても整備を進める計画です。この広場には、休憩広場、散歩ができる園路、東屋、つり橋なども整備したいと考えています。

●留萌ダム下広場の整備

（チバベリ地区）

現在、チバベリ地区に計画されている留萌ダム周辺整備事業との整合・連携を図りながら、地域振興に連動するレジャー施設の整備を進める計画です。この広場には、芝生広場、キャンプ場、サイクリングターミナル、イベント広場、放牧公園、乗馬広場、観光農園等を整備したいと考えています。

――――・――――・――――

このように留萌川の河川敷やまとまりのある河川空間をうまく利用して、市民生活と密着した公園緑地体系を形成するグリーンスペースを作りだすことは、今後留萌市が21世紀に向けて都市化の伸展に伴なう市街地整備計画にとって最も大切なことと考えます。

また、21世紀を担う子供たちに自然とふれあうことができる場所を提供することは、大人たちにとって大切な仕事ではないでしょうか。

私たちが21世紀に向けて今なしえることは「子や孫の代までいい留萌市を残すこと」であると考えています。

この河川整備構想は、21世紀に向けて留萌川がどうなっているのか、どうあるべきなのかをあらわしている構想です。今この構想はスタートしたばかりで今後、国や道にも実現に向けて強く運動を進めていかなければなりません。

昨年、深川～留萌間高規格幹線道路建設実現に向けて官民一体となった運動のようにこの構想も市民ひとりひとりが関心を持って早期実現のために進んでいこうではありませんか。